

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19592583
 研究課題名（和文）「訪問看護師を対象とした感染管理教育プログラム」の実証と再構築に関する研究
 研究課題名（英文） Practice and Reconstruction of "the infection education program for visiting nurses"
 研究代表者
 前田 修子（MAEDA SHUKO）
 金沢医科大学・看護学部・講師
 研究者番号：70336600

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、“訪問看護師を対象とした感染管理教育プログラム”（本プログラム）の実践・効果検証を行い、再構築に向けての課題を検討することである。結果、2 箇所の訪問看護ステーションで研修会を各 12 回実践し、研修会後の訪問看護師の感染管理に関する知識・技術の修得状況が上昇したことより、本プログラムは効果的であったと評価できた。また、各研修会後の学習項目毎の修得状況から、再構築に向けて 6 つの課題が考えられた。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study is to practice and effect verification of the "the infection education program for visiting nurses" (this program), and to examine the subject to reconstruction. This program held 12 times of work shop in 2 home visiting nursing stations. As a result, home visiting nurse's knowledge and skill improved after all the workshops. Therefore, I have estimated that this program was effective. Next ,we considered 6 subjects towards reconstruction.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	800,000	240,000	1,040,000
2008 年度	800,000	240,000	1,040,000
2009 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：

科研費の分科・細目：看護学・地域老年看護学

キーワード：感染管理，訪問看護，継続教育，看護師，教育プログラム

1. 研究開始当初の背景

訪問看護ステーションによる訪問看護が開始され早 20 年近くになる。1993 年には 277 箇所であった訪問看護ステーション数も

2007 年には 5407 箇所に増加し、現在約 29 万人が訪問看護サービスを利用している。訪問看護サービス利用者は、他の居宅サービス利用者に比べ、要介護 4 や 5 といった重度の看

護・介護を必要とする利用者が多く、約7割が何らかの医療処置を受けている。これらの利用者は、高齢による免疫機能の低下や体内へのカテーテル挿入等による易感染状態であることが多く訪問看護における感染管理は重要な課題である。

我々は、訪問看護師を対象に感染管理に関する教育ニーズ調査を実施し、その結果をもとに2005年、訪問看護師が適切な感染管理の知識・技術を修得するための全12回から成る“訪問看護師を対象とした感染管理教育プログラム”（以下、本プログラムとする）を開発した。そこで今回、本プログラムを実践し効果検証を取り組む必要があると考えた。

2. 研究の目的

本プログラムの実践・効果検証を行い、再構築に向けての課題を検討すること。

3. 研究の方法

(1) 対象

2箇所の訪問看護ステーション(機関AとB)に勤務する訪問看護師。

(2) 調査方法, 内容

研修会前後に、各研修会のテーマに関連した知識・技術の修得状況を調査した。研修会前に行う事前質問紙調査は、研修会およそ2ヶ月前、研修会後に行う事後質問紙調査は、研修会終了直後に実施した。

(3) 分析方法

知識・技術の修得状況は、項目毎に『全くできない』1点、『あまりできない』2点、『どちらかといえはできる』3点、『ほぼできる』4点、『十分できる』5点とし平均値を算出し、研修会参加前を事前修得度、参加後を事後修得度とした。事前・事後修得度の比較には、Wilcoxonの順位和検定を用いた。なお、統計的有意水準5%未満を統計的有意差ありとし、SPSS 17.0 for

Windowsを用いた。

(4) 倫理的配慮

対象に、研究の趣旨、研修会への参加ならびに、質問紙調査への回答は任意であること、事前・事後調査用紙には、各個人の修得状況の変化をみる必要から番号を付したこと、データは個人が特定できないように統計的に処理することを口頭と文書で説明し、文書による同意を得た。

4. 研究成果

(1) 実践状況

各訪問看護ステーションと日程を調整の上、平日の夕方1時間を利用し、訪問看護ステーションの施設内で研修会を行った。開催月日、参加人数は表1に示した。開催期間は、2006年11月から2010年1月で、参加者はのべ204名であった。（※第1回研修会は、本研究課題の期間以前に取り組んでいる。）

表1 「訪問看護師を対象とした感染管理教育プログラム」実践状況

回数	テーマ	訪問看護ステーション	開催月日	参加人数
第1回研修会	手洗い、うがい	機関A	2006/11/19	11名
		機関B	2006/12/7	6名
第2回研修会	感染源・感染経路に関する知識 スタンダード・プリコーションズに関する知識 感染症の治療に関する知識 感染症新法に関する知識	機関A	2008/1/28	9名
		機関B	2008/1/22	5名
第3回研修会	手袋・マスク等感染防護用具の取り扱い 在宅における消毒・滅菌方法	機関A	2008/3/28	11名
		機関B	2008/3/11	4名
第4回研修会	各種居宅サービス業者との感染管理に関する連携・指導	機関A	2008/6/20	11名
		機関B	2008/7/30	6名
第5回研修会	感染管理に関する療養者・家族への指導	機関A	2008/9/19	11名
		機関B	2008/9/29	5名
第6回研修会	結核・インフルエンザ	機関A	2008/11/17	10名
		機関B	2008/11/13	6名
第7回研修会	疥癬・MRSA	機関A	2008/12/26	10名
		機関B	2009/1/16	6名
第8回研修会	膀胱留置カテーテル挿入・管理	機関A	2009/3/5	12名
		機関B	2009/3/24	8名
第9回研修会	中心静脈栄養管理	機関A	2009/6/19	11名
		機関B	2009/7/13	5名
第10回研修会	CAPDの管理	機関A	2009/8/18	12名
		機関B	2009/8/25	7名
第11回研修会	気道内吸引（口腔・鼻腔、気管内）	機関A	2009/10/27	10名
		機関B	2009/10/30	6名
第12回研修会	人工呼吸器管理	機関A	2010/1/26	11名
		機関B	2010/1/19	11名

(2) 研修会効果検証

研修会毎に、テーマに関連する知識・技術

の修得状況を研修会前後で調査した。知識・技術の数は、研修会毎に 17～46 項目とし、全項目を平均した事前・事後修得度を表 2 に示した。すべての研修会において、事前から事後にかけて修得度は 1.0 点前後上昇し、研修会は訪問看護師の感染管理の知識・技術を修得する上で効果的であったと評価できた。

表 2 研修会前後の修得度

回数	知識 技術	事前修得度	事後修得度
第1回研修会	17項目	3.5点	4.3点
第2回研修会	16項目	2.8点	4.1点
第3回研修会	24項目	3.2点	4.6点
第4回研修会	18項目	3.0点	3.8点
第5回研修会	17項目	2.9点	4.0点
第6回研修会	結核 18項目 インフルエンザ 20項目	3.6点 3.8点	4.4点 4.5点
第7回研修会	疥癬 24項目 MRASA 22項目	3.5点 3.6点	4.3点 4.3点
第8回研修会	25項目	3.6点	4.6点
第9回研修会	26項目	3.3点	4点
第10回研修会	23項目	2.4点	3.8点
第11回研修会	27項目	3.3点	4.1点
第12回研修会	34項目	3.1点	4.1点

次に、研修会毎の事前・事後修得度の変化と事後修得度の特徴をみていく。

①第1回研修会「手洗い・うがい」

事後修得度は、事前修得度に比べて 14 項目で有意に高かった。項目別では、手洗い必要物品の選択・準備・持参に関する項目の事後修得度が 4 点未満と低かった。このことは、多数の手洗い用品が出回る中、療養者や家族の特性を考慮し選択することや持参方法を考えることが難しかったのではないかと考えられた。今後は、より具体的に理解できるように、参加者が経験している事例をもとに、どのような必要物品を選択・準備・持参するのがよいか提示していく等の工夫が必要と考えられた。

②第2回研修会「感染源・感染経路に関する知識、スタンダード・プリコーションに関する知識、感染症の治療に関する知識、感染症新法に関する知識」

事後修得度は、事前修得度に比べて 14 項目で有意に高かった。項目別では、感染症法に関する項目は上昇したものの他に比べると 4 点未満と低かった。感染症法は、2007 年に改正された法律であり、参加者が看護基礎教育では履修していない可能性が高く、新しい知識の獲得になったことが影響していると考えられた。今後は、訪問看護師が遭遇する可能性が高い感染症を例に挙げ、感染症法との関連を挙げるなど学習内容に工夫が必要と考えられた。

③第3回研修会「手袋・マスク等感染防護用具の取り扱い、在宅における消毒・滅菌方法」

事後修得度は、事前修得度に比べて全項目が有意に高く、4 点未満の項目はなかった。在宅でできる消毒方法に関する項目の事前修得度が低かったが、薬局・スーパー等で入手しやすい物品を用いた消毒方法の紹介により 4 点代後半にまで上昇し、効果的であったと考えられた。

④第4回研修会「各種居宅サービス業者との感染管理に関する連携・指導」

事後修得度は、事前修得度に比べて全項目が有意に高かった。項目別では、関係機関職種への感染管理に関する知識・技術の指導や、連携できる体制づくりの事後修得度が 3.5 点以下と他に比べ低かった。これらの項目は、連携に関する知識・技術の中でも受け身ではなく訪問看護師自身が積極的に働きかけるものであり、一度の学習機会だけでは実践能力を身につけるのは困難であり、通常の訪問看護業務の中での修得に結びつけられる学習内容・方法の工夫が必要と考えられた。

⑤第5回研修会「感染管理に関する療養者・

家族への指導」

事後修得度は、事前修得度に比べて全項目が有意に高かった。項目別では指導時の留意点や理解・実施可能な指導に関する項目の事後修得度が 3.8 点と他に比べ低かった。指導時の留意点は、指導対象の大半が高齢者であること、家族も含まれることから難易度が高い。また、実施可能な指導に関する項目は、「療養者・家族が理解・実施可能な指導内容・方法で指導できる」等、精神運動領域における学習目標であった。60 分の限られた研修時間でこれらの学習目標設定が適切だったのか、再検討の必要性が示唆された。

⑥第 6 回研修会 「結核・インフルエンザ」

事後修得度は、事前修得度に比べて結核 14 項目、インフルエンザ全項目で有意に高く、4 点未満の項目はなかった。第 6 回研修会は、インフルエンザの流行時期に合わせて開催したこと、結核は発症すると入院適応になるため罹患が疑われる場合の在宅での対応に焦点を当てて学習内容を設定したことで学習効果が高かったと考えられた。

⑦第 7 回研修会 「疥癬・MRSA」

事後修得度は、事前修得度に比べて全項目で有意に高かった。項目別では、指導に関する項目の事後修得度のみが 4 点未満であった。指導に関する項目の修得度が低い傾向は、他の研修会でも同様の傾向であり、療養者・家族にわかりやすい表現方法など具体的な指導内容の例を学習内容に組み入れる必要性が示唆された。

⑧第 8 回研修会 「膀胱留置カテーテル挿入・管理」

事後修得度は、事前修得度に比べて 26 項目で有意に高かった。項目別では、大部分が事後修得度 4.5 点以上と高く 4 点未満の項目はなかった。膀胱留置カテーテル挿入・管理は、看護基礎教育でも取り上げられること、

また病棟勤務等で多く経験し基礎的知識・技術を修得している上に、さらに研修会で修得度が高まったと考えられた。ただし、訪問看護師の質問から、項目として設定しなかった長期留置者のカテーテル固定、膀胱洗浄の有用性や判断基準に困惑している状況が明らかになった。今後は、在宅ならでのカテーテル長期留置者への感染管理に焦点を当てた学習内容への工夫が必要と考えられた。

⑨第 9 回研修会 「中心静脈栄養管理」

事後修得度は、事前修得度に比べて 24 項目で有意に高かった。項目別では、必要物品の供給方法、ヒューバー針の穿刺、固定、抜去が 4 点未満と低かった。これらは、事前修得が 2 点代と低くヒューバー針の取り扱い経験者が少ないと予測されたこと、またこれらは精神運動領域の学習目標として設定していたことが影響していると考えられた。未経験者のことを考慮し、ヒューバー針の実物を閲覧できる機会は設けたものの、短時間で全員が手技を体験することは困難であり、器具の一定期間貸し出しなどの研修会後も活かせる学習方法の工夫の必要性が示唆された。

⑩第 10 回研修会 「CAPD」

事後修得度は、事前修得度に比べて全項目で有意に高かった。項目別では、診療報酬制度や社会資源に関する項目の事後修得度が 3.5 点未満と低かった。透析患者の社会資源は介護保険や医療保険だけでなく、身体障害者制度など様々な社会資源にまたがるため複雑でわかりにくいことが影響したと考えられた。これらは研修会のみで理解することは難しく、新しい情報が入手できる手段の伝達が重要であると考えられた。

⑪第 11 回研修会 「気道内吸引」

事後修得度は、事前修得度に比べて 26 項目で有意に高かった。項目別では、連携に関する項目が 2 点代からは上昇したものの事後

修得度が4点未満であった。気道内吸引は、家族以外の介護者でも一定の条件が整えば実施されるようになった。在宅における制度の理解、ホームヘルパーへの指導など訪問看護師に課せられている役割の理解最新情報を把握・解釈しなければならない難易度の高い項目であり、研修会では新しい知識を獲得するも他の項目に比べると修得状況は低かったと考えられた。

⑫第12回研修会 「人工呼吸器管理」

事後修得度は、事前修得度に比べて33項目で有意に高かった。項目別では、診療報酬制度や必要物品の供給方法が4点未満と低かった。これら社会資源に関する項目の修得度の低さは、中心静脈栄養、CAPDでも同様であった。必要物品の準備における感染管理の重要性、また社会資源との結びつきなどの補足が必要と考えられた。

(3)まとめと今後の課題

本プログラムの実践により、訪問看護師の感染管理の知識・技術を向上させることができたと評価できる。今後は、より効果的な教育プログラムに発展させるべく、再構築に向けて、研修会後も修得度が低かった項目の学習内容・方法の工夫など6つの課題が考えられた。

①必要物品の選択・持参に関する学習項目は、具体的に理解できるように、参加者が経験している事例をもとに具体例を提示するなど学習方法の工夫を検討する。

②連携に関する学習項目など、研修会だけで修得することは難しく、訪問看護実践の場での修得が期待できるものは、学習方法を研修形式だけではなく、訪問看護実践の場で知識・技術を修得できるように、本プログラムの学習方法を検討する。

③療養者・家族への指導に関する学習項目は、訪問看護実践の場で活用できる療養者・家族

が理解しやすい表現方法の工夫などを学習内容に含めていく。

④精神運動領域の学習項目は時間を延長し演習を設けるか、必要物品は展示のみだけでなく一定期間の貸し出しを検討する。

⑤膀胱留置カテーテル挿入・管理に関連した学習項目は、在宅では長期留置者が多いことを想定した上で、訪問看護師が修得すべき感染管理の知識・技術を再検討する。

⑥感染症や各種医療処置に関連した制度の学習項目は、遭遇する可能性が高い感染症や事項に限定し、制度に関連した訪問看護師の役割を明確に伝えること、また必要な時に最新情報が入手できるように情報の入手手段を学習内容に入れることを検討する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

①前田修子, 滝内隆子, 小松妙子, 訪問看護師を対象とした「関係機関・職種と感染管理に関する連携・指導」研修会の学習内容・方法の検討—事前調査の結果から—, 岐阜看護研究会誌, 査読有, 1巻, 2009, 1—7

②小松妙子, 前田修子, 滝内隆子, 訪問看護師を対象とした「感染管理に関する基礎的技術」研修会の効果検証, 岐阜看護研究会誌, 査読有, 1巻, 2009, 25—32

③滝内隆子, 前田修子, 小松妙子, 訪問看護師を対象とした「感染対策に関する基礎的知識」研修会の効果検証—研修前後の修得状況を通して—, INFECTION CONTROL, 査読有, 18 (2), 2009, 94—103

④前田修子, 滝内隆子, 小松妙子, 訪問看護師を対象とした「膀胱留置カテーテル挿入・管理」感染管理研修会の効果検証, 環境感染誌, 査読有, 24 (6), 2009, 417—424

⑤前田修子, 滝内隆子, 小松妙子, 訪問看護

師を対象とした感染管理の連携・指導に関する研修会の評価－研修会参加前後における知識・技術の修得状況から－，日本在宅ケア学会誌，査読有，13（2），2010，85－92

⑥蛭田美貴，前田修子，小松妙子，岡本千尋，滝内隆子，訪問看護師を対象とした「結核・インフルエンザ」研修会の効果検証，岐阜看護研究会誌，2巻，査読有，2010，1－8

⑦岡本千尋，前田修子，小松妙子，蛭田美貴，滝内隆子，訪問看護師を対象とした「疥癬・MRSA」研修会の学習内容・方法の検討，岐阜看護研究会誌，2巻，査読有，2010，9－16

⑧滝内隆子，前田修子，小松妙子，蛭田美貴，岡本千尋，訪問看護師を対象とした「在宅中心静脈栄養」研修会の効果検証，岐阜看護研究会誌，2巻，査読有，2010，17－24

⑨滝内隆子，小松妙子，蛭田美貴，前田修子，「CAPDに関する研修会」効果検証，透析ケア，査読有，2010，印刷中
〔学会発表〕（計 7 件）

①前田修子，滝内隆子，小松妙子，訪問看護師の「感染管理における基礎的技術」の修得状況，第 34 回日本看護研究学会学術集会，2008 年 8 月 20 日，兵庫県神戸市

②小松妙子，前田修子，滝内隆子，訪問看護師の「感染管理における基礎的知識」の修得状況，第 34 回日本看護研究学会学術集会，2008 年 8 月 20 日，兵庫県神戸市

③前田修子，滝内隆子，小松妙子，訪問看護師を対象とする「感染管理に関する療養者・家族への指導」研修会の効果検証，第 13 回日本在宅ケア学会学術集会，2009 年 3 月 15 日，大阪府堺市

④小松妙子，前田修子，滝内隆子，訪問看護師を対象とする感染管理に関する研修会の効果検証「関係機関・職種との連携・調整」研修会の事前・事後修得度より，第 13 回日

本在宅ケア学会学術集会，2009 年 3 月 15 日，大阪府堺市

⑤滝内隆子，前田修子，小松妙子，訪問看護師の「インフルエンザ・結核」の知識・技術の習得状況，第 13 回日本在宅ケア学会学術集会，2009 年 3 月 15 日，大阪府堺市

⑥蛭田美貴，小松妙子，滝内隆子，岡本千尋，前田修子，訪問看護師を対象とした「結核・インフルエンザ」研修会の効果検証，第 35 回日本看護研究学会学術集会，2009 年 8 月 4 日，神奈川県横浜市

⑦岡本千尋，小松妙子，蛭田美貴，滝内隆子，前田修子，訪問看護師の「疥癬・MRSA」の学習内容・方法の検討，第 35 回日本看護研究学会学術集会，2009 年 8 月 4 日，神奈川県横浜市

〔図書〕（計 1 件）

①前田修子，滝内隆子，小松妙子，研究費による出版，訪問看護師を対象とした感染管理教育プログラム資料集，2010，200

6. 研究組織

(1) 研究代表者

前田 修子 (MAEDA SHUKO)
金沢医科大学・看護学部・講師
研究者番号：70336600

(2) 研究分担者

滝内 隆子 (TAKIUTI TAKAKO)
岐阜大学・医学部・教授
研究者番号：10289762
小松 妙子 (KOMATSU TAEKO)
岐阜大学・医学部・准教授
研究者番号：20326078

(3) 連携研究者

蛭田 美貴 (HIRUTA MIKI)
岐阜大学・医学部・助教
研究者番号：70547661